

移行のための リーダーハンドブック

ボーイスカウト部門

ベンチャースカウト部門 新進級課程



そなえよつねに
ボーイスカウト

はじめに

プログラム委員会としての約4年半の検討を経て、平成28年11月1日に進級課程の改定について公示をいたしました。

現在のボーイスカウト部門の進級課程は、平成14年9月1日に中央審議会の承認を受け改定され、また、ベンチャースカウト部門は、平成9年5月にシニアースカウト部門からベンチャースカウト部門に名称が改定され、それに伴い進級課程についても同時期に改定されました（平成23年に一部改定）。

今回の進級課程改定の特徴は、現状の問題点の改善や創立100周年を目指した長中期計画の「戦略的優先事項」である「活動的で自立したスカウト」を育てるため、一貫性のある進歩を重視し、ボーイスカウト部門とベンチャースカウト部門の進級課程を一本化（シームレス化）した6段階とし、すべての進級章を取得して到達点である富士スカウト章を目指す制度にしたことと、それぞれの進級課目に、キーワードおよび目標を設定したことにあります。

1級スカウトまでは、スカウト教育法の要素の1つである野外活動に重点をおいた進級課目とし、菊スカウトから富士スカウトに至るまでは、野外での活動はもとより、奉仕活動を通じ、後輩スカウトの模範となるべくリーダーシップを^{かんよう}涵養する進級課目を設定しました。

さらに、進級課程の改定に伴い、一部技能章を見直し、新しい技能章を追加いたしました。今後は、進級課目および技能章課目の2つにより、すべてのスカウトが野外での活動を中心として、段階的に富士スカウトを目指すこととなります。

日本連盟プログラム委員会
委員長 福嶋 正己

目次

1. 今回の改定について	1
1. ボーイスカウト部門の現状について	1
2. ベンチャースカウト部門の現状について	2
3. 改定の主旨について	2
2. 改定の概要	3
1. 新進級課程の特徴	3
2. 改定内容	4
3. 進級課程の変更内容	5
1. 進級課目	5
2. 選択課目	6
4. 活動の分野	7
5. 進級と活動	8
1. 隊活動	8
2. 班活動	8
3. 班長の役割	9
4. ジュニアリーダーの役割	9
5. 個人の進歩計画	10
6. 進級課目の履修	12
6. 必修課目(進級課目)	13
1. 初級スカウト章	13
2. 2級スカウト章	13
3. 1級スカウト章	14
4. 菊スカウト章	15
5. 隼スカウト章	16
6. 富士スカウト章	16
7. 選択課目(技能章)	17
1. 選択課目の再設定	17
2. 技能章細目	17
3. 考査基準	21
4. 記録と申請	22
5. 考査から授与までの手順	23
8. 新進級課程への移行要領	25
1. 移行期間	25
2. 移行準備	25
3. 各隊の移行準備	25
4. 移行の方法	26
9. 記章の着用	29
1. 進級記章	29
2. 技能章	29

(巻末) 新進級課程各章の進級課目一覧

1. 今回の改定について

1. ボーイスカウト部門の現状について

スカウト教育は、一つひとつの加盟登録団、隊において実践されています。日本連盟では、全国のスカウト教育の実施状況を把握し、時代の要請に沿って、適切に教育が実施されるよう、スカウト教育の全国的な標準を定期的に見直しております。

ボーイスカウト部門の現行のプログラムは、それまでの進級制度の内容と当時の活動の現状が一致していない部分が出てきたこと、より上位の進級を目指す進級率が伸びていないこと、またカブスカウト部門やベンチャースカウト部門が改定される中での一貫した部門の流れを円滑にしていく必要があることから、プログラム改定について検討が行われ、平成14年に改定されました。

この改定の大きな特徴は、それまでの進級率の停滞などを理由として、スカウトたちに必ず挑戦、獲得してほしい「必修課目」と、個々のスカウトの特質にあった興味と関心による「選択課目」という考えを根底にしながら、選択の幅を広げること、そしてスカウトが自発的に進歩に挑戦しつつ、班活動を刺激する内容の課目を設定し、進級を促すことにありました。

しかし、改定から10年以上経つ中で下記にあるような新たな問題も見られるようになってきていることから、日本連盟では、現行の進級課程についてベンチャースカウト部門の現状を含めて検証してきました。

平成23年9月の全国県連盟コミッショナー会議においてもボーイスカウト部門のプログラムの調査を行い、スカウト技能を着実に身につけていくことができる必修課目を再構築し、進級と連動した選択課目の作り直しが必要であるとの評価をいただきました。

現状の問題点

1. 各進級章に必要な技能や明確な目標が希薄になった。
2. 分野が幅広くなり、選択の幅が広がったため、年長スカウトが後輩スカウトに対し、すべての技能を指導することができなくなり、パトロール・システムがうまく機能していない例がある。
3. 設定されている各進級章の課目において、基本的技能が選択制であり、年間プログラムとの連携が困難な他、キャンプを経験しなくても、菊スカウト章に進級できてしまう。
4. ターゲットバッジを修得することが目標となり、中身が希薄になり、マスターバッジの修得に至らないことが多い。
5. 技能章取得が進級と連動していないため、より高度な技能への挑戦が減っている。
6. 進級事務手続きが煩雑になった。

2. ベンチャースカウト部門の現状について

ベンチャースカウト部門については、平成9年にシニアスカウト部門からベンチャースカウト部門へ改定がなされました。

平成17年に実施した「ベンチャースカウトの現状に関するアンケート調査」において、恒常的な少人数による活動であること、ボーイスカウト部門の進級課程との継続性が乏しいこと、専門性のある高度な活動が展開されていないことが結果として表われました。

その結果を踏まえ、ボーイスカウト部門とベンチャースカウト部門のプログラムを一体的に改善するため、都道府県連盟の協力を得て、平成19年に全国10県連盟11こ団を研究開発協力団に指定し、調査研究と団における実践を進めることとしました。

それぞれの協力団で2年間に渡る研究開発から、さまざまな問題点を受け、隼スカウト章設置や対象年齢の変更、プロジェクトバッジの追加等の改定を平成23年に行いましたが、現状でも解決されない問題点が見受けられます。

現状の問題点

1. プロジェクトバッジ8分野のうち、スカウト教育の基本である「高度な野外活動」「奉仕」を取得することなく富士スカウト章に進級できてしまう。
2. プロジェクトを実施することが、ベンチャー隊の活動に置き換えられて、それに終始する傾向が見受けられる。
3. ボーイスカウト部門で本来修得すべき基本的なスカウト技能が身につけておらず、この部門の本来あるべき「高度な野外活動」を目指すベンチャースカウトが減少した。

3. 改定の主旨について

今回の改定は、これら部門の問題点と創立100周年を目指した長中期計画を踏まえて、長い間、不変であった進級課程を時代の要請に沿った適切なスカウト教育となるよう行われるものです。

現状の問題点や長中期計画を踏まえ、活動的で自立したスカウトを育てるため、一貫性のある進歩を重視したものとなるよう、現行のボーイスカウト部門とベンチャースカウト部門の進級課程を一本化（シームレス化）して、進級を6段階とします。

また、各進級章にはキーワードと目標を設定しました。細目も見直し、必修課目を中心に、その章の目標となる技能、知識、心構えを修得することを目指します。

2. 改定の概要

1. 新進級課程の特徴

新たな進級課程は、大きく以下の4つの特徴があります。

1. 一貫した進歩制度

本進級課程は、初級スカウトから富士スカウトまでの一貫した進歩制度であり、初級－2級－1級－菊－隼－富士の6段階の進級章をすべて取得して到達点である富士スカウト章を目指します。

2. 成長した姿を表わす進歩の目標

本進級課程では、スカウトの成長した姿と求められる技能を表わす進歩の目標を設定し、スカウトは自己の目標を展望できると共に、保護者は自身の子どもの将来の成長した姿を想像することができます。

3. 必要な技能や知識を明確にした必修課目

各進級課目は、これまで選択制としてきた内容を改め、進歩の目標で設定する、目標となる技能や知識の修得を目指す必修課目に内容を改定し、進歩の継続性を重視したものとしています。

4. 内容を刷新した選択課目

必修課目と同様に、これまで選択制としてきたターゲットバッジとマスターバッジの履修を見直し、スカウトに求める基本的な技能を伸ばしつつ興味の幅を広げる選択課目とするため、現行の技能章の改善・新設による改定を行います。

■ 新たな進級記章のデザイン



※ ボーイスカウトからベンチャースカウトの期間は7年間ありますが、受験勉強などで実質の活動は6年程度であることに鑑みて、6段階の進歩とします。

2. 改定内容

今回の改定では、進級課程が変わることで仕組みも含めてすべてが変わるわけではありません。「新しく変わるもの」と「現在のまま運用されるもの」とに分けられます。

■ 新しく変わるもの

新進級課程の根幹となる、進級課目や選択課目はもちろんのこと、現在の進級記章についても表し方を改めます。また、技能章の考査については考査員認定だけでなく、隊長認定で取得できる技能章を新たに設定します。進歩に関わる考査記録をまとめる、スカウト進歩記録帳も改定を行います。

- 進級記章
- 進級課目（必修課目）
- 選択課目（技能章）
- 技能章の考査（考査員認定、隊長認定）
- スカウト進歩記録帳
- 進歩の手引き

■ 現行のまま運用されるもの

今回の改定は、「進級課程」の改定であり、年間プログラムや月間プログラムの策定、隊集会プログラムの企画・計画・実施の流れは大きくは変わりません。しかし、ボーイ隊とベンチャー隊を中心にすべての部門が一貫した進級課程となるため、スカウト個人をいかにして成長・進歩させていくかを隊だけでなく、団として考える必要があります。

- 隊の運営（ボーイ隊・ベンチャー隊）
- 進歩計画
- たすきの着用

以下の書籍については、現在既刊の内容をご活用いただき、不足分を本書のように、資料として充当する形で準備を進めていきます。

- スカウトハンドブック（ボーイ隊、ベンチャー隊）
- リーダーハンドブック（ボーイ隊、ベンチャー隊）

3. 進級課程の変更内容








現行の進級課程は、必修課目である「進級課目」と、選択課目の「ターゲットバッジ・マスターバッジ」に分かれており、進級課目と選択課目の一部を関連づけすることにより、進級課目を履修するとターゲットバッジ細目の一部が履修でき、ターゲットバッジを履修していくと進級課目の一部も履修でき、これによって進歩意欲を増加させようというものでした。

今回の進級課程の改定においては、「必修」である進級課目にて修得して欲しい基本的なスカウト技能を明確にし、そのうえでさらに必要な技能を「選択」することで上位の進級を目指します。そこで新しくなるものは、次のとおりです。

1. 進級課目

現行の進級課目を改め、すべての進級課目の内容が変わります。一貫した進級制度を表すため、記章の形状を小判型に統一し、スカウト章の表し方を改めます。

これまでベンチャー隊に入隊・上進時に着用していたベンチャーバッジとベンチャー章は廃止します。ボーイ隊・ベンチャー隊入隊時はスカウトバッジを着用し、ベンチャー隊上進時はそれまでに履修認定されている進級記章を引き続き着用します。

区分	図柄	区分	図柄	区分	図柄
ボーイ隊・ベンチャー隊入隊時の進級記章	スカウトバッジ 	スカウト章 初級		ベンチャースカウト年代の進級記章	隼スカウト章 
		スカウト章 2級			
		スカウト章 1級			富士スカウト章 
		菊スカウト章 			

現行の進級課目は、最小限のものは必修の項目とし、それ以外のものをいわば「単位制」のような形で履修し、それにより個々のスカウトの多様性に応えることにより上位の進級を目指していました。



今回の改定においては、修得して欲しい基本的なスカウト技能を必修として設定し、着実に技能を修得したうえで上位の進級を目指します。また、各進級の目指すべき姿を表わす「キーワード」と「進歩の目標」が次のように設定されます。

進歩の目標

進級課目	キーワード	進歩の目標
初級	仲間	初心者として、ハイキングやキャンプで自分のことが自分でできるようになる。
2級	ハイキング	班の中心として、ハイキングの計画・実施・報告ができるとともに、初級スカウトの指導ができる。
1級	キャンピング	ボーイスカウト活動の中心として、スカウトキャンプの計画・実施・報告ができ、スカウト技能全般を単独で実施できる。
菊	模範	自分の隊・班で積極的に活動でき、他のスカウトの良き模範として、班長や上級班長等、責任ある行動と指導ができる。
隼	冒険と奉仕	スカウト技能を役立てることができ、ジュニアリーダーとして基本的な隊運営の知識を有し、健全なる体と精神を身につける。
富士	リーダーシップ	プロジェクトの計画・実施・報告ができ、奉仕の精神と社会の一員としての責任を持ち、社会貢献を果たせるリーダーとなる資質を身につける。

2. 選択課目

現行の選択課目である「ターゲットバッジ」「マスターバッジ」「プロジェクトバッジ」を廃止し、現行の技能章を基に改善・新設し、選択課目を一本化します。

<p>進級課目と連動して取得を要する 技能章(全9種) 縁取り：赤 例) 野営管理章、救急章、パイオニアリング章</p> 	<p>興味・関心に応じて取得可能なもの 技能章(一例) 縁取り：緑 例) 通信章、計測章、観察章</p> 
--	---

新進級課程における選択課目(技能章)は、スカウト個々の興味・関心に応じて取得可能なものの他に、進級課目と連動して取得を要する技能章があることは現行の進級課程と違いはありませんが、炊事章、野営章、救急章、野営管理章の4種類から9種類へとその数は変更になります(P.17「7. 選択課目(技能章)」参照)。

また、スカウト技能の修得促進を目指し、考査員ではなく所属隊隊長の認定により修得することのできる技能章を追加(一部従来の技能章細目を見直し隊長認定技能章へ変更)し、スカウト技能の充実を目指します。

なお、現行の技能章についても定期的な見直しを行い、新たな形状・デザインに改定します。

4. 活動の分野

新たな進級課程における進歩の目標は、個々の青少年の身体的、知的、情緒的、社会的、精神的といった人間性のあらゆる側面の発達を促すよう、それぞれの部門・年齢層に相応しいように設定しています。

各進級章は、その進級の目標とキーワードのもと、スカウト活動の4つの柱である「人格・健康・技能・奉仕」を中心として、それぞれの進級区分・年齢層に即した「活動の分野」の見直しを行いました。

現行の進級項目の大別「基本」「健康と発達」「スカウト技能」「善行」「信仰奨励」「班長会議」を継承（一部は進級に応じて呼称を変更）し、次のとおり新たに設定します。

活動の分野と進級課目の主な内容

活動の分野	進級課目の主な内容
1. 基本	「ちかい」と「おきて」の唱和や実践、日本国旗の意味・歴史の説明と正しい掲揚方法の理解、日本および外国スカウト章の見分けといった <u>スカウト運動の基本的な内容</u> についての理解を深める。
2. 健康と発達 →スカウト精神	体力の維持向上や体温や脈拍の正しい取り方、日常的な応急手当や急造担架の作成と運搬、スカウティング・フォア・ボーイズを読んだ上での隊長との話し合いや感想をまとめるといった <u>体と心の発達</u> についての修得を目指す。
3. スカウト技能	計測、通信、ロープ結び、ハイキング・読図、キャンプ技能、野外炊事といった様々な形式でのキャンプを計画・実施し、報告するために必要な <u>基本的なスカウト技能</u> の修得を目指す。
4. 善行 →奉仕	デンコーチや上級班長といった役目の中で <u>他部門へ奉仕</u> する機会を持たせ、社会奉仕活動への参加や自らが企画・実施・報告する奉仕活動の運営といった <u>社会貢献につながる活動</u> を目指す。
5. 信仰奨励 →信仰	班や隊の活動におけるスカウト OWN・サービスの参加や主要な役割を担当することで <u>信仰奨励章の取得</u> を目指し、自分が所属または興味のある教宗派の歴史や行事を知ることによってその後の <u>明確な信仰を持つこと</u> を目指す。
6. 班長会議 →成長と貢献	班および隊の活動にどれだけ進んで参加をしてきたかを <u>班長会議</u> により認めもらう。自分の隊やチームそして社会に役立つためのプロジェクトの企画・運営により <u>自身の成長と隊や社会への貢献</u> を目指す。

5. 進級と活動

進歩制度における、進級課程はその制度の中でも個人の成長を目でみてわかるものとして大きな比重がおかれます。魅力あるプログラムとは奇をてらったイベント的なプログラムの羅列ではなく、スカウト教育法に則ったプログラムでなければ本来のものとはなりません。その意味でも、進級課程はプログラムを実践していく中で自然と修得がなされるようにプログラムと進級のリンクが必須となります。

集会にきっちり参加しているスカウトは、ボーイスカウト部門では菊スカウトに、ベンチャースカウトでは富士スカウトに最終的に進級して当たり前という状況が望ましいのです。逆に言えば、80%以上の出席率がありながら進級できないスカウトが居たならば、それは、指導者のプログラム展開の失敗であり、班制教育・進歩制度が十分に理解されていないといっても過言ではありません。

本改定では、進級課目を年間プログラムに落とし込み、その細目を各集会プログラムに活用できるよう作られています。要は、進級細目ができるプログラムを、その月のテーマに則って計画実施すれば良いということになります。すべてのスカウトが富士スカウトに進級できるよう、新たな進級課程を十分に活用してください。

1. 隊活動

現在の進級課程は、多くの選択課目の中から、個々のスカウトが進級計画を作成し、それを隊の年間・月間プログラムに落とし込む作業が大変困難な状況になっていました。

本改定では、進級課程の細目の多くを選択制から必修制とし、各進級章は同等の項目・課目に分けられ、進級章ごとにステップアップしていく内容となっています。年間プログラムもこの進級課目をベースに立てれば、すべてのスカウトに対応できる年間プログラムとなり、隊集会プログラムの企画計画も立てやすくなるはずです。

また、班長が班員の進級状況を把握しやすくなり、班長会議でも隊長として隊全体の進級状況を確認して適切に指導助言ができるようになります。

2. 班活動

ボーイ隊では、複数班体制での班長会議や班長訓練、班会議などを経て隊集会に臨みます。この班活動こそが、隊運営の一番大切な要素です。

班は、班長の責任のもとにあり、個人にとって自分の性格（キャラクター）を養成する場所となります。班長は、チームワークとリーダーシップの資質を実践的に身につけ、班員たちは班全体の利益のために利己心を捨てる、すなわちチーム精神のため自制心や自己管理することを班活動の中で学びます。

進級課目は、一部の細目を除き、班活動の中で班長が履修を認めてサインすることができます。また、初級スカウト章から菊スカウト章までは、班長会議において進級を認めてもらいます。班活動は、個々に合わせた学びの機会と認証の場でもあるのです。

ベンチャー隊では、ボーイ隊で学んだチーム精神やチームワーク、リーダーシップといった実践的な力を発揮して、個人やチームとして活動します。

隊集会やグループでの活動は、その活動の中での責任者（プロジェクトチーフ）の責任のもとに実施されます。自分たちの興味・関心だけでなく、団や地域の要望を交えた活動の中で、自己の成長と団や地域への貢献に寄与します。

3. 班長の役割

班のイメージなどから班長の役割を説明すると、班長とは「責任」と「信頼」によるリーダーですが、班長が何の技能を有しなくてもよい訳ではありません。技能ができない班長を班員は認めるでしょうか。現実には技能が十分でないこともあるでしょうが、そこに「努力」があるかないかによって大きく結果は異なることと思います。そこで隊長は、班長に「班長訓練」あるいは次長を含めた「グリーンバー訓練」を通じて、隊の年間プログラムに関連づけながら、技能を修得できるようにしていくわけです。

班長は班員の進歩について次のような姿勢で「指導」し、「認定」をしていきます。

まず、班長が教えられることは班長が教える。自分の知らないことやできないことがあるれば、できる班員に指導を任せる。班で解決できなければ隊長と相談することです。そして班長が認定することとは、もちろんその課目が達成できたかどうか、自分が指導していない場合はその指導した人の意見をもとに認定するとともに、もっとも大切なことは、その課目を挑戦したスカウトが自分の最善において行ったか、つまり、スカウトのちかいとおきての実践があったかということの評価してあげることです。

このことは「隊長」に求められることと何ら変わりません。「班長」も「隊長」もリーダーということでは同じことでしょう。それが青少年の場合も、成人の場合も「リーダーとしての仕事」の要素は同じと考えられます。

ちかいとおきての実践評価を班長に委ねることは大切です。もともと、班長会議は「スカウティング・フォア・ボーイズ」でいうところの「名誉会議」です。単に隊のプログラムや予定を決めたりするのが、班長会議ではないはずで、そこに「ちかいとおきて」に基づく評価、そしてそれによる表彰や履修の認定があるからこそ、民主的な自治が高まるのです。その仕組みをうまく適用することが大切だと思います。

ただし、安全に関わることや「ちかい」「おきて」に関する事等、その他の理由により、認定ということでは班長だけでなく、隊長、もしくは家族、地域の方も関与するよう設定しています。

4. ジュニアリーダーの役割

ボーイスカウトの各部門には、それぞれの年代の特性に合わせたジュニアリーダーがいます。典型的なのは、カブ隊における組長やデンコーチ、そしてボーイ隊における班長や上級班長です。ベンチャー隊では、隊運営会議の議長や活動グループのプロジェクトチーフがその役割を担います。

ベーデン・パウエルは成人指導者向けの本である1915年版「パトロール・システム」の序文で、「パトロール・システムというものは、少年たちをその仲間を選んだ人のリーダー、すなわちパトロール・リーダー（班長）を頭とする恒久的なグループに託することである」と述べています。

ここでは、ベンチャースカウトが担うジュニアリーダー（活動グループのプロジェクトチーフやボーイ隊における上級班長など）について記載します。

ベンチャー隊では、隊運営を除き固定されたジュニアリーダーはおらず、活動グループ毎にプロジェクトチーフが置かれます。班長とは違い、活動グループの目的達成のためのマネジメントをしていくことが主な任務となり、グループの責任者はチーフですが、活動の中心は個々のメンバーとなるため、メンバーの責任がより大きくなります。

また、カブ隊へのデンコーチが任命できない場合など、団の状況に応じてベンチャースカウトがビーバー、カブ、ボーイ隊にて継続的に奉仕し、後輩の指導にあたるほか、団の運営に協力することも考えられます。ボーイ隊で培った技術や経験を活かして、団や地域貢献に協力します。

ボーイ隊では、隊長の判断のもと、班長会議に諮ったうえで上級班長を任命することができます。資格は18歳以下で指導力がある1級以上のスカウトであり、班長・次長のいわゆるグリーンバーの経験者が望ましいとされているため、必ずしもベンチャー隊から上級班長としてスカウトを選出する必要はありません。

また、上級班長の役割は、隊長の伝令係や隊活動のサポートのための存在ではなく、隊活動の中心となることです。隊の物事をきめる班長会議の座長を務め、隊集会を実施する責任があります。また、班長訓練は隊長が行うものですが、上級班長は班長たちへのサポートを行います。

上級班長は隊指導者と比べ、年齢的に近いことから班長の良き相談役として班長をまとめ、必要に応じて技能を教え、隊にいてはならない存在です。隊長はそのことを肝に銘じ、より良いスカウト活動ができるように上級班長の選任、任命に努め、上級班長を育てていきましょう。

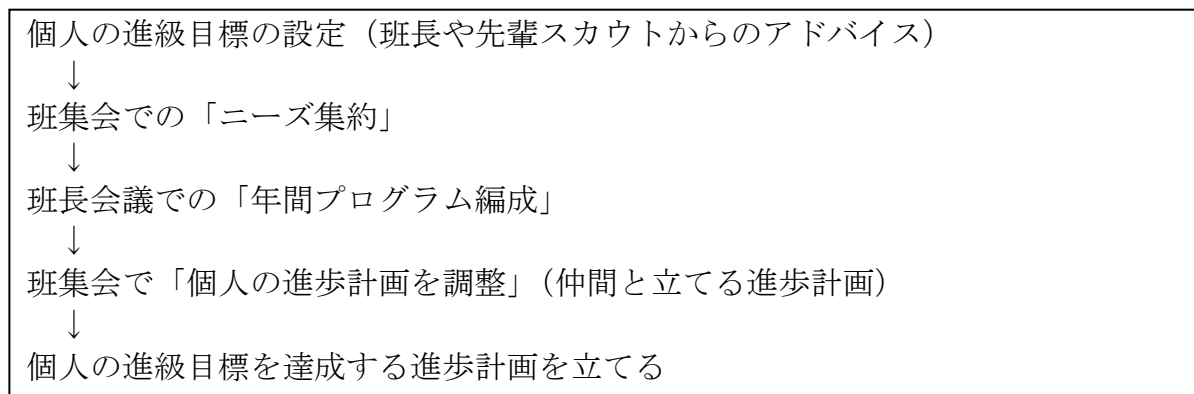
5. 個人の進歩計画

個人の進歩計画については、スカウトハンドブックにあるように、スカウトとしての一步を踏み出してから、ボーイ隊、ベンチャー隊に在籍中どのように進級していくかをおおまかに計画するものです。

また、新進級課程となったことで、ボーイ隊では菊スカウト章、ベンチャー隊では富士スカウト章を最初からスカウトに目指すことを意識させることが大切です。これは、一部の優秀なスカウトだけが取れるわけではなく、入隊したスカウトみんなが取得できる章だからです。そのためにも、スカウトそれぞれが目標を設定し、それを達成する計画を立てることが必要になります。

ボーイ隊では、班長や先輩スカウトからのアドバイスを受けてまずは個人の進級目標を設定します。その後は、班集会でのニーズの集約や班長会議での年間プログラムの編成を経て、改めて個人の進歩計画を調整、個人の進歩計画を立てていきます。

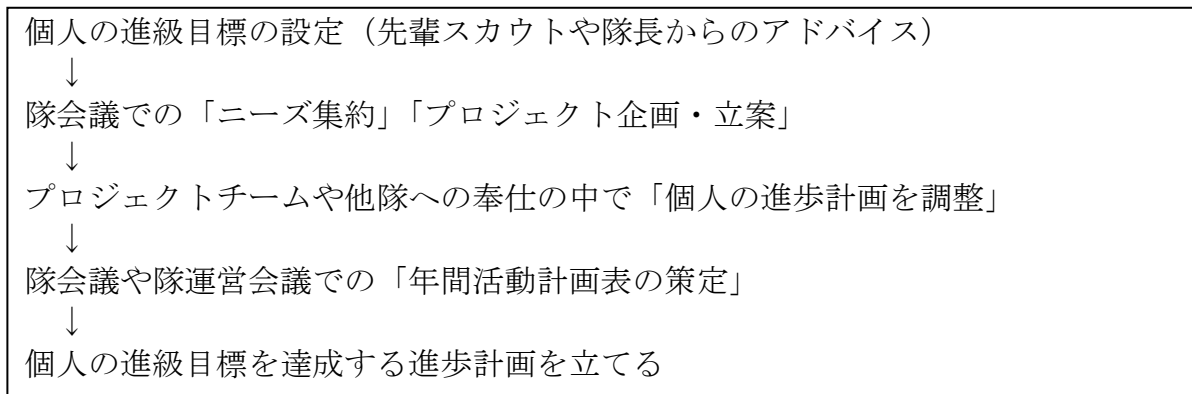
■ ボーイ隊での進歩計画の立案



■ ベンチャー隊での進歩計画の立案

ベンチャー隊では、ベンチャープロジェクトを企画・立案して、隊や活動チームで活動するものから、ボーイ隊からの一貫した進級課程における課題となる進級課目を履修するものへと変わります。プロジェクトは、進級課目の一つの細目として、引き続き取り組むこととなります。

ボーイ隊と同様にベンチャー隊でも、先輩スカウトからのアドバイスや隊長との面談を受けて個人の進級目標を設定します。その後のプロジェクトチームとしての取り組みや他隊への奉仕計画の中で個人の進歩計画を調整し、隊会議や隊運営会議での年間計画表の策定を経て、個人の進歩計画を立てていきます。

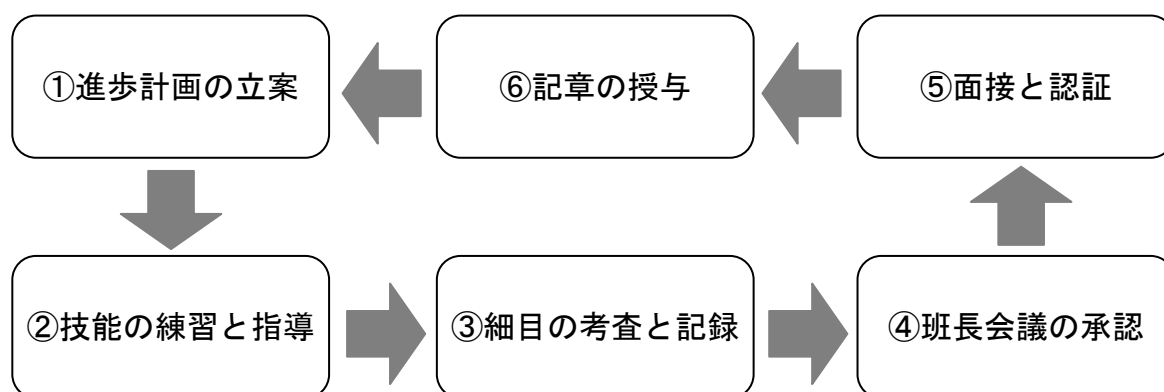


■ 進級計画例

新進級課程におけるボーイ隊への上進から富士スカウトとして活動するまでの期間の一例として、次のような個人の進級計画が考えられます。

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小学5年	カブスカウトとして活動（9月から4月にボーイ隊へ上進）									初級／上進者の取得目安		
小学6年	初級／入隊者の取得目安			初級スカウトとして活動						2級／進級時期の目安		
中学1年	2級スカウトとして活動			1級／進級時期の目安								
中学2年	1級スカウトとして活動			菊／進級時期の目安								
中学3年	菊スカウトとして活動（9月から4月にベンチャー隊へ上進）											
高校1年	隼／進級時期の目安									隼スカウトとして活動		
高校2年	隼スカウトとして活動			富士／進級時期の目安								
高校3年	富士／進級時期の目安			富士スカウトとして活動（9月から4月にローバー隊へ上進）								

6. 進級課目の履修



① 進歩計画の立案

進歩計画は、スカウト自らが進級目標を設定し、班や隊でのアドバイスや調整を行う中で策定します。

② 技能の練習と指導

個人で立てた進歩計画にそって、個人で技能を練習して、班や隊、プロジェクトチームや他隊奉仕を行う中でその技能を活用します。必要な技能の習得において、班長や仲間から教えてもらうこと、仲間に教えることも自分の成長につながります。

③ 細目の考査と記録

自信のついた細目から、一つずつ考査を受けます。ボーイ隊において、初級スカウト章から菊スカウト章までは、一部の細目を除いて班長が考査を行います。ベンチャー隊において、隼スカウト章と富士スカウト章は、ベンチャー隊長が考査を行います。

考査に合格したら、新たに作成する「スカウト進歩記録帳」に考査の合格日の記入とサインをしてもらいます。

④ 班長会議の承認

進級課目にすべて合格すると、班長会議において、スカウトの進級の推薦を行います。

⑤ 面接と認証

班長会議で進級がふさわしいと認められれば、面接において認証されます。初級、2級、1級は団内で、菊、隼は地区または都道府県連盟で、富士は都道府県連盟で面接が行われます。進級のための面接は、スカウトの努力を認める大切な場としてください。

⑥ 記章の授与

これらすべてを終えると、できるだけ多くのスカウトや団関係者がいる場を選んで、みんなの前で進級記章を授与します。

6. 必修課目(進級課目)

(★) … 隊長承認による履修細目 無印… 班長承認による履修細目

1. 初級スカウト章



キーワード「仲間」

目標：初心者として、ハイキングやキャンプで自分のことが自分でできるようになる。

1. 基本 (1)「ちかい」と「おきて」が言える。そのうえで、隊長と話し合う。(★)
(2)「スカウト章」「モットー」「スローガン」の意味を説明できる。
(3)日本の国旗の正しい様式を知り、集会で掲揚柱に掲揚する。
(4)「連盟歌」が歌える。
(5)普段の集会で必要なもの(訓練用具)を知り、携行する。
(6)スカウトサイン、敬礼、スカウトの握手ができる。
2. 健康と発達 (1)体温と脈拍を正しく測ることができる。
3. スカウト技能 (1)自分の体や身近にあるものを用いて簡単な計測を行う。
(2)集会で使う身ぶり信号(気をつけ、休め、すわれ、分かれと集合隊形の各種サイン)、笛の合図を覚える。
(3)ロープ結び
①次のロープ結びの使いみちを理解し、実際に使う。
ア) 本結び イ) 一重つぎ ウ) ふた結び エ) もやい結び オ) 8の字結び
4. 善行 (1)集会などで行う社会奉仕活動へ積極的に参加する。
5. 信仰奨励 (1)隊集会やキャンプ、ハイキングでスカウトズタウン・サービスに参加する。
6. 班長会議 (1)初級スカウトとして進級することを、班長会議で認めてもらう。

2. 2級スカウト章



キーワード「ハイキング」

目標：班の中心として、ハイキングの計画・実施・報告ができるとともに、初級スカウトの指導ができる。

1. 基本 (1)「ちかい」と「おきて」について意味を説明でき、その実践に努力していることを隊長に認めてもらう。(★)
(2)日本の国旗の意味、歴史、仕様を説明でき、班や隊の活動で国旗を正しく掲揚できる。
(3)外国旗およびその国のスカウト章を5か国以上見分ける。
2. 健康と発達 (1)体温、脈拍と体調との関係について説明する。
(2)救急法
①日常遭遇しやすい次のような場合の応急手当や対応を説明できる。
ア) 鼻血 イ) 目のちり ウ) やけど エ) 指の切り傷 オ) 立ちくらみ
カ) 頭痛 キ) 蜂、ダニ、毛虫などの虫さされ ク) 熱中症
②三角巾で他の人の頭、手、ひざ、足に包帯を巻き、腕を吊る方法を実演する。
(3)隊または班の安全係を3か月以上担当する。
3. スカウト技能 (1)ハイキング・読図
①16方位と方位角の呼び方を覚え、コンパスで進路を発見する。
②2万5千分の1地形図を用いて次のことをする。
ア) 図上に示された2つの地点の間方位角、直線距離、標高差、道路に沿った歩行距離を読む。
イ) 真北と磁北の違いを説明する。
ウ) 500m(または1km)ごとの方眼を正確に書き入れた地形図により、6桁(または8桁)座標読みを行い、示された地点に到達する。
③三角点、水準点、標高点、等高線とは何かを知り、三角点または水準点の標石を発見する。
④10個以上の地形図記号を覚える。
⑤コンパスを用い、バックベアリングができる。

- ⑥地図とコンパスを用いた 10km 程度のハイキングを計画し、隊長の指名する 2 級以上のスカウト（但し、適任者がいない場合はベンチャースカウトも可）とともに、保護者の同意のもと実施し、報告する。このハイキングは、1.基本(1)および 6.班長会議(1)以外の課目を終了した後に、仕上げの課目として行う。(★)
- (2)キャンピング
 - ①次の野外料理を作る。
 - ア) 複数人数分の米飯および味噌汁
 - イ) 複数人数分の野菜、肉、魚、玉子を材料とした 2 種類以上の料理
 - ②かま、なた、のこぎりを安全に使用でき、手入れと保管ができる。
 - ③火口、焚き木、薪を作り、マッチ 2 本で火を起し、500ml の水を沸騰させる。
- (3)ロープ結び
 - ①次のロープ結びの使いみちを理解し、実際に使う。
 - ア) 巻き結び イ) ねじ結び ウ) 引きとけ結び エ) ちぢめ結び
 - オ) 腰掛け結び カ) てぐす結び キ) てこ結び ク) 張り綱結び
- (4)観察
 - ①食用植物、有害植物をそれぞれ 2 種以上見分ける。
 - ②24 個の小さな物を 1 分間観察し、そのうちの 16 個以上を記憶によって答える。
- (5)計測
 - ①100m の距離を誤差 5%以内で歩測する。
 - ②スカウトペースで、2km を 15 分で移動する。
 - ③はかりや計量器を使わずに、1 合の米、1ℓの水を 15%以内の誤差で量る。
- (6)通信
 - ①片かな手旗信号で 15 の原画を理解し、10 文字程度の語句を発信、受信できる。
 - ②追跡記号を 10 種以上覚える。
- 4.奉仕 (1)デンコーチとして 3 か月以上の奉仕、または社会奉仕活動を 3 回以上実施する。
- 5.信仰奨励 (1)スカウトズタウン・サービスで自分ができる役割を果たし、「ちかい」と「おきて」を日常で実践したこと、実践により感じたことを発表する。
- 6.班長会議 (1)初級スカウトとして隊および班活動に 3 か月以上進んで参加したことを班長会議で認めてもらう。

3. 1 級スカウト章



キーワード「キャンピング」

目標：ボーイスカウト活動の中心として、スカウトキャンプの計画・実施・報告ができ、スカウト技能全般を単独で実施できる。

- 1.基本
 - (1)「ちかい」と「おきて」の実践に努力していることを日常の生活で示す。(★)
 - (2)姉妹都市または自分が興味を持っている 2 か国の民族、文化、通貨、言語を調べ、隊または班集会で話す。
 - (3)日本の国旗と外国旗を併用して掲揚および設置する時の注意事項を知る。
 - (4)半旗の意味と正しい掲揚の方法を知る。
- 2.健康と発達
 - (1)50m 泳ぐか 1,000m を走り、自己記録を更新できるように努力すること。
 - (2)水分や食物の補給が体調に与える影響を知り、体調を管理するための準備ができる。
 - (3)救急法
 - ①班員 1 人と協力して急造担架を作り、実際に人を運ぶ。
 - ②直接圧迫止血法と間接圧迫止血法の違いを知り、直接圧迫止血法による応急処置ができる。
- 3.スカウト技能
 - (1)キャンピング
 - ①班の炊事係として、2 泊 3 日以上のカンパの調理を担当する。
 - ②自然物（石、木、竹等）を用いた、キャンプに役立つ工作を 1 つ以上作成する。
 - ③マッチに防水加工を施し、携帯用の防水容器に入れて提出する。
 - ④連続 5 泊以上の、隊キャンプか自団の隊または班で参加できる地区、県連盟、日本連盟のキャンプ大会に参加する。
 - ⑤キャンプにおける用便、ゴミ処理ならびに食料保管について、衛生上注意す

る点を知り、実践できる。

- ⑥1級旅行(1泊24時間以上のハイキング)の計画書を作成し、必要な個人装備を携行して隊長の指名するベンチャースカウト(但し適任者がいない場合は1級以上のスカウト)とともに、隊長より与えられた課題と方法によりキャンプを行い、報告する。このキャンプは、1.基本(1)および6.班長会議(1)以外の課目を終了した後に、仕上げの課目として行う。(★)

(2)ハイキング・読図

- ①日中、夜間においてコンパスを用いずに2種類の方法で方位を発見する。
②300m以上の距離に追跡記号を設置し班員を誘導する。
③クロスベアリングの手法を用い、地形図上で現在地を発見する。

(3)ロープ結び

- ①次のロープ結びの使いみちを理解し、実際に使う。
ア) 垣根結び イ) よろい結び ウ) バタフライノット
エ) 馬つなぎ オ) からみ止め カ) バックスプライス
キ) 角しばり ク) はさみしばり ケ) 筋かいしばり

(4)観察

- ①樹木5種類以上をスケッチまたは写真で記録し、特徴を述べる。
②北極星の発見方法を知り、北極星を発見できる。また、5つの星座を発見できる。
③身近にいる動物(ほ乳類・鳥類・魚類など)について観察し、報告する。

(5)計測

- ①自作の簡易測量器具を用いて、樹木などの高さを誤差10%以内で測る。
②簡易測量法を用い、到達できない2点間の距離(長さ、高さ)を誤差10%以内で測る。
③ハイキングで野帳をつけ、その野帳によって略地図を作る。

(6)通信

- ①片かな手旗信号で20文字以上の文章を発信、受信できる。
②号笛を使って野外でできる簡単な通信ゲームを考え実施するか、号笛を使用した救難信号を覚える。

(7)技能章から、「ハイキング章」「スカウトソング章」を取得する。

4. 奉仕

- (1)班での奉仕活動を計画し、隊長の承認を得て実施、報告する。(★)

- (2)自分の住んでいる地域にある3つ以上の施設へ案内ができる。

5. 信仰奨励

- (1)隊集会やキャンプ、ハイキングで行うスカウトズ・サービスで、主要な役割を果たす。

6. 班長会議

- (1)2級スカウトとして隊および班活動に3か月以上、進んで参加したことを班長会議で認めてもらう。

4. 菊スカウト章



キーワード「模範」

目標: 自分の隊・班で積極的に活動でき、他のスカウトの良き模範として、班長や上級班長等、責任ある行動と指導ができる。

1. 基本

- (1)「ちかい」と「おきて」の実践に努力して、他のスカウトの模範となる。(★)
(2)班長や次長(グリーンバー)、またはジュニアリーダーとして隊運営に6か月以上携わる。
(3)B-Pのラストメッセージを読み、隊長とその内容について話しをする。(★)
(4)外国のスカウトの「おきて」を調べる。できれば外国スカウトや指導者に直接教えてもらう。

2. 健康と発達

- (1)5分間泳ぐか1,500mを走り、自己記録を更新できるように努力すること。
(2)救急法

- ①AED(自動体外式除細動器)について以下のことが説明できる。
ア) AEDとは何か イ) どのような時に使用するか ウ) 使用の手順
②たばこ、アルコール、薬物が人体へ及ぼす害について知る。

3. スカウト技能

- (1)技能章から「野営章」「野外炊事章」「リーダーシップ章」を取得する。

- (2)班長や次長（グリーンバー）として班キャンプ、またはジュニアリーダーとして隊キャンプの計画を行い1泊以上の固定キャンプを実施し隊長に報告書を提出する。(★)
- 4.奉仕 (1)団や地域で取り組んでいる奉仕活動に、4日以上(1日1時間以上)参加する。
- 5.信仰奨励 (1)信仰奨励章を取得する。(★)
- 6.班長会議 (1)1級スカウトとして隊および班活動に4か月以上、進んで参加したことを班長会議で認めてもらう。

5. 隼スカウト章 (★)



キーワード「冒険と奉仕」

目標：スカウト技能を役立てることができ、ジュニアリーダーとして基本的な隊運営の知識を有し、健全なる体と精神を身につける。

- 1.基本 (1)隼スカウトとして最低6か月間、「ちかい」と「おきて」の実践に最善をつくす。
- 2.スカウト技能 (1)自分を含めた2人以上のベンチャースカウトで、安全と衛生および環境に配慮した2泊3日以上移動キャンプ(歩行距離20kmまたは自転車100km以上)を計画し、隊長の承認を得て実施、報告する。
(2)次のスカウト技能のいずれかをボーイスカウト隊で指導する。
①計測 ②通信 ③ロープ結び
(3)技能章から「救急章」「パイオニアリング章」を取得する。
- 3.スカウト精神 (1)「スカウティング・フォア・ボーイズ」のキャンプファイア物語 21,22 および 26を読み、内容について隊長と話し合う。
- 4.奉仕 (1)他部門の活動へ6か月以上にわたり奉仕し、その実績を報告する。
(2)社会的弱者(高齢者、障がい者等)への支援活動を積極的に行い、隊長に活動記録を提出する。
- 5.信仰 (1)自分の所属または興味を持った教宗派の歴史と教えを知る。
(2)自分の所属または興味を持った教宗派の宗教行事について知る。
- 6.成長と貢献 (1)チームプロジェクトのチーフか主要な役割としてプロジェクトを計画、実施し、隊長に報告書を提出する。または、3泊4日以上隊キャンプの実施計画を作成し、実際に運営を行い、隊長に報告する。

6. 富士スカウト章 (★)



キーワード「リーダーシップ」

目標：プロジェクトの計画・実施・報告ができ、奉仕の精神と社会の一員としての責任を持ち、社会貢献を果たせるリーダーとなる資質を身につける。

- 1.基本 (1)隼スカウトとして最低6か月間、「ちかい」と「おきて」の実践に最善をつくす。
(2)現在の自分の考えと将来の進路についてまとめ、その内容について隊長と話し合う。
- 2.スカウト技能 (1)技能章から「野営管理章」「公民章」を取得し、技能章を合計15個以上取得する。
(2)自ら設定する課題により、2泊3日の単独キャンプ(固定または移動)を計画し、隊長の承認を得て実施後、評価を報告書にまとめ隊長へ提出する。
- 3.スカウト精神 (1)「スカウティング・フォア・ボーイズ」を読み、感想文を提出する。
- 4.奉仕 (1)地域社会や学校などでの奉仕活動を企画し、隊長の承認を得て実施、報告する。
(2)地区、県連盟、日本連盟の行事等に奉仕し、その実績を報告する。
(3)奉仕の意義について理解し、自身が今後の人生においてどのように社会に対して奉仕、貢献できるかを文章にまとめ隊長と話し合う。
- 5.信仰 (1)宗教章を取得するか、取得に対して努力をしたことを隊長に認めてもらう。
- 6.成長と貢献 (1)隼スカウトとして自己の成長と社会に役立つための課題を設定し、個人プロジェクト(研究、製作、実験など)を自ら企画して隊長の承認を得た上で、少なくとも1か月以上にわたって実施、完結させ、隊長に企画書、計画書、および報告書を提出する。

7. 選択課目(技能章)

1. 選択課目の再設定

新たな進級課程における選択課目(技能章)は、従来の意図するところに加え、スカウトが技能を修得することを目指し、技能章考査員による認定だけでなく、所属隊隊長の認定による技能章を追加(一部従来の技能章細目を見直し隊長認定技能章へ変更)し、スカウト技能の充実を目指すこととなります。

■ 技能章取得の基準

- ① 2級スカウトから取得可能。
- ② 1級と菊の細目の技能章および公民章は、隊長の認定で履修できる。
- ③ 必要に応じて新設技能章を増やすことができる。
- ④ 資格検定については、中・高校生年代で修得可能な基準を章ごとに定める。

■ 各進級章における必要な技能章

	技能章名称	考査員認定	隊長認定	1級	菊	隼	富士
1	野営章		○		○		
2	野営管理章	○					○
3	救急章	○				○	
4	野外炊事章		○		○		
5	公民章		○				○
6	パイオニアリング章	○				○	
7	リーダーシップ章		○		○		
8	ハイキング章		○	○			
9	スカウトソング章		○	○			

■ 隊長認定として新設する技能章

10	通信章		○				
11	計測章		○				
12	観察章		○				

2. 技能章細目

1. 野営章

- (1)入団以来通算 10 泊以上のキャンプ(3 泊以上のキャンプに 2 回参加したことを含むこと、また自分が計画した班キャンプを含むことができる)に参加していること。
- (2)キャンプ地を選ぶときの基本的な条件と自然環境を保護するための注意点を説明し、班キャンプにおけるサイト設計図を作成し、そのキャンプ地に合った班サイトを構築する。
- (3)家型テントとドーム型テントを含む、代表的なテントを 3 種以上張り、特徴、用途を説明できること。
- (4)フライ付き家型テントを正しく張り、昼と夜、晴天と雨天、強風時に応じた綱の張り方ならびに支柱、ソドクロス、換気窓、扉の扱い、乾燥作業ができること。また、ドーム型テントの強風時および雨天時の対策、乾燥作業ができる。

- (5)木、竹などの材料を用い、正しいロープ結びを用いてキャンプ生活に必要な用具や設備、立ちかまどを含む3種以上を製作すること。
- (6)キャンプの衛生について、次の各項にわけて説明ができること。
 - ①湿気の防止と乾燥作業の必要性とその方法
 - ②寝るテント内に食品を貯えることの有害な理由
 - ③キャンプサイトにハエを発生させないための対策
- (7)夜のキャンプサイトにおける正しい明かりの取り方を理解していること。また、ホワイトガソリン、灯油、ガス、乾電池を使用するキャンピング灯火を3種類以上使用した経験があり、取り扱い上の注意事項・特徴・手入れの方法が説明できること。炊事用コンロの正しい取扱いが説明できること。
- (8)2泊以上のキャンプに必要な個人携行品を身につけて点検を受けること。

2. 野営管理章

- (1)野営計画時において次の項目について点検し、点検報告書を作成する。
 - ①キャンプ地の選定（水質検査を含む）
 - ②食料および燃料の手配
 - ③便所とごみ捨ての衛生処理
 - ④班サイトの立地条件（炊事場・かまど配置条件を含む）
 - ⑤現地における緊急対策
- (2)朝と夜の点検の重要性と心構えについて説明し、朝と夜の点検の各点検項目表を作成し、それを用いて実際のキャンプにおいて点検を行い、報告する。
- (3)キャンプ中に起きるかもしれぬ突発事故（例えば急病、火災、盗難、虫害、風水害など）がおきた場合の処置について説明できること。
- (4)次のキャンプ用具の格納、保管に当たり、行うべき処置を知ること。
 - ①テント、フライシート ②グラウンドシート ③ペグ
 - ④工具 ⑤炊具 ⑥ロープ類
- (5)水辺または水泳プログラムを有するキャンプの安全管理につき、特に注意する点を説明できること。
- (6)キャンプにおいて朝礼、スカウトOWN・サービス、キャンプファイアを計画、実施し、それぞれの意義について説明する。
- (7)隊、地区または県連盟など1個隊以上の規模で行われるキャンプ、または常設キャンプ場の管理に通算3昼夜以上奉仕した経験があり、その奉仕記録または報告書を提出する。

3. 救急章

- (1)ボーイスカウト救急法講習会もしくはそれに準ずる救急法講習会を修了する。ただし、次の講習会の場合では、ボーイスカウト救急法講習会の一部細目を履修することができる。これからの講習会で履修できなかった細目については、別途考査を受け、合格すること。
- (2)隊の救急箱を整備し（未整備品、充足、不足物品のリストアップ含む）、そのチェックリストを提出する。
- (3)県連盟、地区単位で設置される救護所の奉仕や隊活動、キャンプでの救護係を通算5日以上担当し、その報告書を提出する。

4. 野外炊事章

- (1)戸外で、あり合わせの材料を用いて、地面を掘らない方法で、3種以上のかまどを作ること。また、常設かまどの正しい利用方法と注意点を説明できること。
- (2)ホワイトガソリン、灯油、ガスを使用するキャンピングストーブ(コンロ)と自然保護の関係について理解していること。また、1機種以上のキャンピングストーブを使用して炊事をした経験があり、取扱上の注意事項・特徴・手入れの方法が説明できること。
- (3)マッチに防水加工を施し、携帯用の防水容器に入れて提出すること。
- (4)班の炊事係として、次の野外料理を作ること。

- ①食用野草を含む野菜料理 2種以上
- ②牛、豚、鶏などの肉料理 2種以上
- ③塩干魚および生魚の料理 2種以上
- ④小麦粉を用いたダンパー、またはツイスト
- (5)川などの自然水を使用するときの簡易ろ過装置を図解し作成する。また、ろ過後の水および生水の滅菌ができること。
- (6)非常食（簡易食品を含む）5種をあげ、その扱いを知ること。
- (7)炊事用具の正しい使用と管理ができ、次の項目が実演できること。
 - ①包丁を用いて、料理に応じた野菜の切り方、魚の3枚おろし。
 - ②使用した炊事用具で食中毒を引き起こさないための衛生管理方法。

5. 公民章

- (1)次のうち、1つを選んで説明する。
 - ①国民の権利、義務、責任
 - ②民主主義と基本的人権
 - ③日本国憲法の三大原則
- (2)地球環境問題について1つ取り上げ、自分には何ができるか説明する。
- (3)日本がどのような国際貢献をしてきたか、また今後求められる国際貢献について説明する。
- (4)ボーイスカウト以外で地域に貢献する団体を調べる。
- (5)国において市民権とはどういう意味か調べ、どうすればこの国において良き国民となれるか隊長と話し合う。
- (6)新聞等の報道の中から「平和」・「人権」に関する記事を1つ選び、概略をまとめる。
- (7)郷土の歴史、伝統行事、文化遺産について調べ、報告書を提出する。
- (8)隊長の助言を得て、地域社会での指導的立場にある人を訪問し、仕事や任務について学び、集会で話す。

6. パイオニアリング章（新設技能章）

- (1)8の字しばり（または三脚しばり）を用いて、丸太等で三脚を組み立てる。
- (2)角しばりと筋かいしばりを用いて、丸太材で台形橋脚（斜め材2本入り）を組み立てる。
- (3)ロープを強く張るための結びを知り、2種以上の方法を実演する。できれば、滑車を使った場合の方法を知り実演する。
- (4)次のいずれか1種を選び、これを構築する。
 - ①100kg以上の荷や人を積めるいかだ
 - ②幅30cm以上、長さ3m以上でリュックを背にしたスカウト1人ずつが安全に通れる軽架橋
 - ③頂上でスカウト1人が安全に作業できる高さ4.5m以上の信号やぐら
- (5) (4)で選んだ工作物の設計図を作成し、使うロープの種類、使用するロープ結び等を説明し、資材リストを作成する。
- (6) (4)で選んだ工作物の模型を作成し、作業計画書を作成し、作業手順が説明できる。
- (7) (4)で選んだ工作物を構築する場合の作業安全計画書を作成し、作業にあたっての安全対策が説明できる。

7. リーダーシップ章

- (1)班長または次長（ベンチャースカウトの場合は議長またはチーフ）として、6か月以上、隊運営に携わる。
- (2)班の係（ベンチャースカウトの場合は隊または活動グループ）において、それぞれの役割について説明できる。
- (3)他のスカウトの進級に向けて、スカウト技能を指導する。
- (4)傾聴について知り、仲間の意見を理解する。
- (5)コミュニケーションに関する書籍を読み、自分の意見を隊長と話し合う

8. ハイキング章

- (1)パトローリングの正しい方法と、その意味を説明する。
- (2)ハイキングの装備携行品一覧表を作成する。
- (3)ハイキングで観察物を3種類以上スケッチする。
- (4)地球にやさしい野外活動をするために、ハイキングで何ができるかを説明できる（アウトドアコード）。
- (5)道に迷ったときの対処の方法を説明できる。
- (6)ハイキングで野帳をつけ、またその野帳によって略地図を作る。
- (7)ハイキングに適切な服装、雨具、靴について説明できる。
- (8)自然環境を利用した天気の前測ができる。

9. スカウトソング章

- (1)「君が代」と「連盟歌」を正しく歌える。
- (2)スカウト歌集から10曲以上、スカウトソングを歌える。
- (3)セレモニーで連盟歌の指揮を正しく行う。
- (4)5曲以上のスカウトソングを歌唱指導することができる。

■ 隊長認定として新設する技能章

10. 通信章

- (1)100m以上離れた2点で手旗の送受信ができる。
- (2)号笛または旗を用いたモールス信号で10文字程度の文章の送受信ができる。
- (3)追跡記号を10種以上覚える。
- (4)300m以上の距離に追跡記号を設置し班員を誘導する。
- (5)救難信号の種類と使い方を説明する。

11. 計測章

- (1)自分の身体や身近にあるものを用いて簡単な計測を行う。
- (2)ロープに1m刻みの目盛りを施し、計測に使える。
- (3)100mの距離を誤差5%以内で歩測する。
- (4)スカウトペースで2kmを15分で移動する。
- (5)はかりや計量器を使わずに、1合の米、10の水を15%以内の誤差で測る。
- (6)自作の簡易測量器具を使い、樹木などの高さを誤差10%以内で測る。
- (7)簡易測量法を用い、到達できない2点間の距離（長さ、高さ）を誤差10%以内で測る。
- (8)計測を取り入れた集会を計画、実施を行う。

12. 観察章

- (1)食用植物、有害植物をそれぞれ2種以上見分ける。
- (2)24個の小さなものを1分間観察し、そのうちの16個以上を記憶によって覚える。
- (3)ハイキングで観察物を3種以上の方法（写真、スケッチ、拓本、採取など）で記録する。
- (4)樹木5種類以上をスケッチまたは写真で記録し、特徴を述べる。
- (5)北極星の発見方法を知り、北極星を発見できる。また、5つの星座を発見できる。
- (6)身近にいる動物（ほ乳類・鳥類・魚類など）について観察し、報告する。

■ その他、既存の技能章

既存の技能章についても、細目の内容や取得状況を考慮して、内容の改定ならびに廃止・新設を行います。（別紙、技能章細目一覧参照）

3. 考査基準

今回の改定より選択課目は技能章に一本化されました。その中で、改定前までの技能章考査方法から変更されたこととして、考査員認定ではなく、隊長認定の技能章を9個設定したことがあります。理由としては、スカウトが班・隊活動および各種プログラムをより高度に楽しく展開できるため、スカウト活動・プログラムに必要な基本的技能、知識を深められるよう設定いたします。

今までの技能章の概念を一部変更することにはなりますが、基本的スキルの充実を隊長認定としたうえで、現行技能章を考査員認定として残します。元々の技能章の目的である、スカウト自身の興味や特質に応じて自由に選択・取得することができ、知識や個性を伸ばし、その技能が自分自身や多くの人たちの役に立ち、さらに社会人として職業を得る時の大きなきっかけや趣味となり、人生にとって大きな役割を果たすことができることは今までと変わりありません。

■ 隊長認定による技能章

- (1)野営章 (2)野外炊事章 (3)公民章 (4)リーダーシップ章 (5)ハイキング章
(6)通信章 (7)計測章 (8)観察章 (9)スカウトソング章

隊長認定の技能章は、スカウト活動における基本的な技能、知識を基に設定されています。進級課程にある各細目と同じ細目が多く設定されていることから、プラス2～3細目で修得可能な技能章もあります。隊長として上手にスカウトを導きながら、隊長認定技能章はすべて修得できるように指導してください。

考査の基準に関しては、進級課程細目同様に基準ラインは細目の字句を確認のうえ、スカウトの取り組み度合い（姿勢と努力）、それに達成度合いを隊長としてスカウトそれぞれをよく観察しコミュニケーションをとりながら、適切なアドバイスをして達成させることが隊長としての責務であります。

■ 考査員認定による技能章

考査員認定技能章の考査に関しては、現行の通りですので、日本連盟書籍「技能章の指導と考査の手引き」ならびに P.23「考査から授与までの手順」を参照してください。なお、隼スカウト章に必要な技能章として、パイオニアリング章（新設技能章）があります。本章の考査員委嘱に必要な要件は、以下のとおりといたします。

パイオニアリング章の考査員委嘱に必要な要件

- (1)パイオニアリングの作成に熟練している者

* 注意事項

新課程移行期間が平成31年3月末までとなりますが、移行時点でベンチャースカウトは現行課程のまま富士スカウト章への挑戦ができます。それに従い、技能章考査も新課程では隊長認定となる技能章であっても、現行の考査員認定の技能章を修得します。

現行課程での必修となる技能章＝野営章、野営管理章、炊事章、救急章の4つは現行課程技能章細目と考査員による認定で修得となります。技能章のみ新課程の隊長認定での修得とはなりませんので気をつけてください。

4. 記録と申請

隊長はスカウトが挑戦した技能章について、進級に必要な技能章および隊長認定が可能な技能章の計12個に関しては、新たに発行される「進歩記録帳」に審査日付と審査サインを記載します(図1)。他の技能章は空欄に修得した技能章名と審査員名、審査日付を記載します(図2)。

■ 進歩記録帳への記録

8. ハイキング章				
	審査細目	審査方法	合格年月日	認印
(1)	パトローリングの正しい方法と、その意味を説明する。	口述または記述	. .	
(2)	ハイキングの装備携行品一覧表を作成する。	報告書の提出	. .	
(3)	ハイキングで観察物を3種類以上スケッチする。	報告書の提出	. .	
(4)	地球にやさしい野外活動をするために、ハイキングで何ができるかを説明できる(アウトドアコード)。	口述または記述	. .	
(5)	道に迷ったときの対処の方法を説明できる。	口述または記述	. .	
(6)	ハイキングで野帳をつけ、またその野帳によって略地図を作る。	報告書の提出	. .	
(7)	ハイキングに適切な服装、雨具、靴について説明できる。	口述または記述	. .	
(8)	自然環境を利用した天気の詳細が予測できる。	報告書の提出	. .	

審査細目のすべてに合格したことを証明します。

____年__月__日 隊長_____印

図1：記録帳に記載された技能章例

「 _____ 」章				
	審査細目	審査方法	合格年月日	認印
(1)			. .	
(2)			. .	
(3)			. .	
(4)			. .	
(5)			. .	
(6)			. .	
(7)			. .	

審査細目のすべてに合格したことを証明します。

____年__月__日 技能章審査員_____印

図2：自由に選択できる技能章例

■ 審査方法

技能章ごとに示されている細目には、「審査方法」があり、細目に応じて口頭での説明で良いものから資料や報告書の作成を必要とするものがあります。実演や口述以外は、何かしらの報告書を作成する必要がありますので、適切に指導してください。

- 実演 その場で実際にスカウトにやらせる。
- 口述または記述 その場で口頭または筆記により説明させる。
- 作品の提出 自作の作品を提出させる。
- 報告書の提出 調査・研究の経過とまとめた成果とを報告書として提出させる。
- 証明書の提示 すでに得た資格・実績などを提示させる。

■ 技能章考査申請書への記載（例）

技能章の考査申請は、各地区、県連盟において定める書式において、手続きを行います。以下に例として、個々のスカウト分を申請する書式を示します。複数のスカウト分をまとめて申請する書式としては、書籍「技能章の指導と考査の手引」の付表5を参照してください。

- ・団、地区、県連盟保存用のすべてに必要な事項を記入する。
- ・技能章考査員の考査後に、地区や県連盟の認証日を担当する委員会において記入する。
- ・技能章の記章と合わせて、申請書を考査申請した団・隊長へ戻す。
- ・考査終了後、隊長はスカウトに対して、速やかに記章を授与する。

技能章考査申請書 (県連盟保存)	
技能章考査申請書 (地区保存)	
技能章考査申請書 (団保存)	
_____地区	日本ボーイスカウト_____連盟
_____第_____団_____隊	_____級 氏名_____
上記スカウトの技能章考査をお願いいたします。	
平成_____年_____月_____日	隊長_____
上記スカウトが技能章考査に合格した旨を報告します。	
平成_____年_____月_____日	技能章考査員_____
(_____第_____団)	
地区認証：平成_____年_____月_____日 県連盟認証：平成_____年_____月_____日	

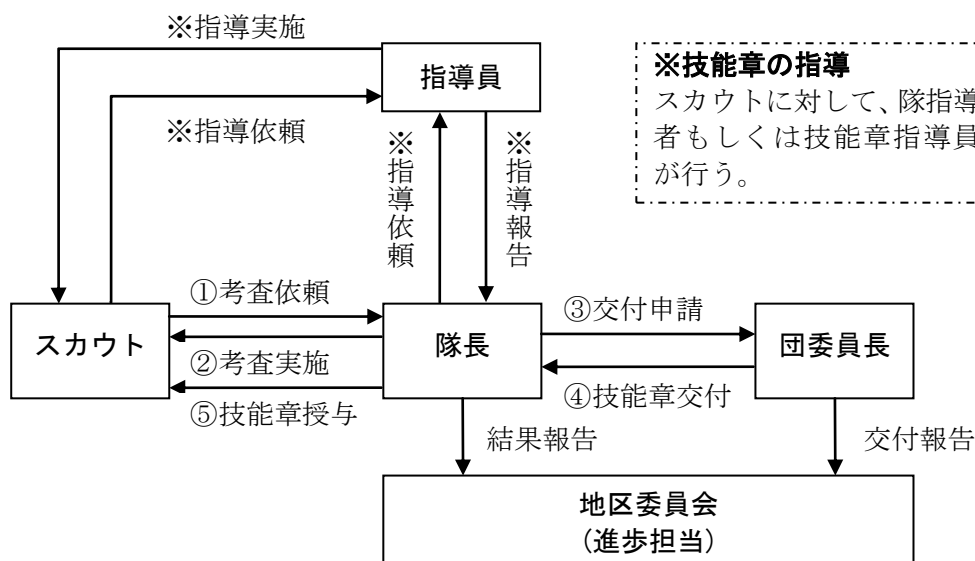
5. 考査から授与までの手順

新たな進級課程においては、技能章により考査の基準が異なりますので、スカウトが取り組む技能章が何であるのか、隊長認定か考査員認定かを把握することが大切です。そのうえで、考査基準に応じて、考査・記章申請を行います。

■ 隊長認定による技能章

- (1)スカウトの考査依頼を受け、隊長が考査を行う。
- (2)考査認定であれば、隊長から団委員長へ考査終了と記章申請を行う。
- (3)団委員長または進歩担当団委員より、地区または県連盟へ記章申請を行う。
- (4)記章が届き次第、授与式を団または隊で行い、隊長よりスカウトへ記章授与を行う。

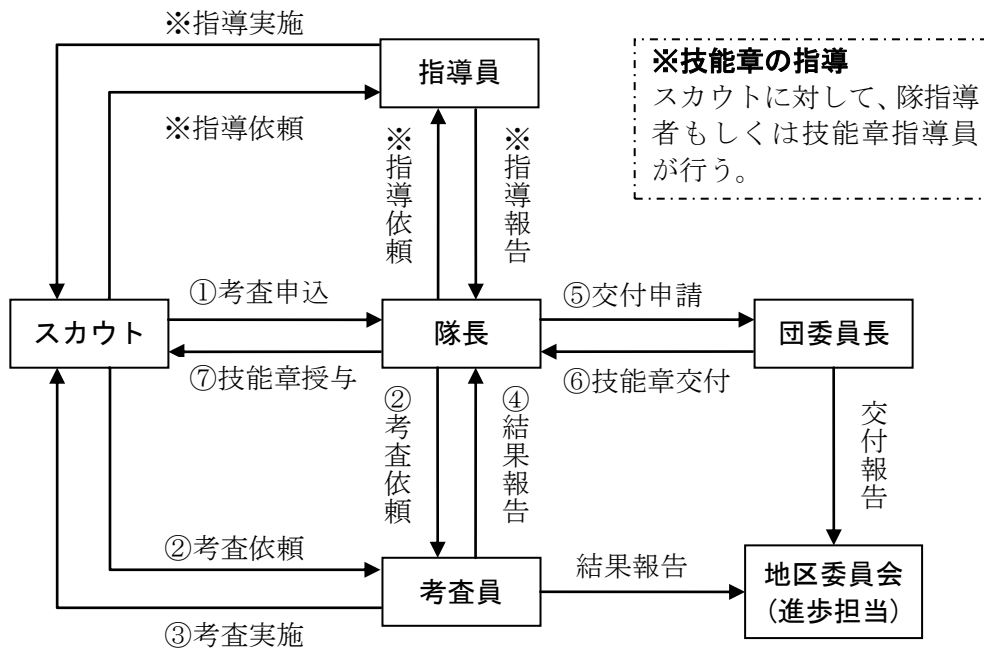
➤ 指導・考査・交付の手順



■ 審査員認定による技能章

- (1)スカウトの審査依頼を受ける。
- (2)隊長から技能章審査員へ審査依頼を行い、審査員が審査を行う。
- (3)技能章審査員から隊長へ審査結果が報告される。
- (4)審査認定であれば、隊長から団委員長へ審査終了と記章申請を行う。
- (5)団委員長または進歩担当団委員より、地区または県連盟へ記章申請を行う。
- (6)記章が届き次第、授与式を団または隊で行い、隊長よりスカウトへ記章授与を行う。

➤ 指導・審査・交付の手順



8. 新進級課程への移行要領

1. 移行期間

各隊・団で上進時期を考慮のうえ、平成29年9月1日から平成30年3月末日の間に移行を開始し、1年以内に移行を完了します。

- (1) 9月上進の隊は、平成29年9月から移行を始め、平成30年8月までに移行を完了します。
- (2) 4月上進の隊は、平成30年4月から移行を始め、平成31年3月までに、もしくは、平成29年9月から移行を始め、平成30年8月までに移行を完了します。
- (3) 移行開始時にベンチャー隊に所属するスカウトに限り、現行の進級課程のまま富士スカウト章を目指すために、最長2年間の移行期間延長が認められます。

2. 移行準備

日本連盟は「移行」に伴い、以下の資料または書籍を準備しています。

○ 資料

- ・ 新進級課程の移行要領 [リーダー]
- ・ 移行のためのリーダーハンドブック [リーダー]
- ・ 進級課目読み替え表 [スカウト]

○ 書籍

- ・ 技能章考査の手引き [リーダー]
- ・ 進歩の手引き [スカウト]
- ・ 進歩記録帳 [スカウト]

なお、スカウトハンドブックおよび隊長ハンドブックについては、部門の一体化の続き、そして書籍の在庫状況を考慮したうえで出版時期を検討しています。

3. 各隊の移行準備

移行にあたっては、新進級課程の主旨を理解し、スカウトに対して十分な説明を行なうと同時に保護者、他部門指導者、団関係者とも共通理解を得るよう説明をお願いいたします。

今回の改正は、ボーイスカウト部門とベンチャースカウト部門の両方の進級課目に関わるため、移行の時期やボーイ隊からベンチャー隊へ上進するスカウトへの対応について両部門の指導者が共通理解のうえ進めていく必要があります。

① スカウトへの説明

スカウトに対しては、新進級課程の趣旨と具体的内容を説明し、初級スカウトから富士スカウトまでの一貫した進歩制度であることを理解させます。

班長に対しては、課目の認証等を班長が行い、必要に応じて隊指導者が援助することを再確認し理解させます。また班会議等の実施方法についても、同様に再確認し、より自主的に活動を展開できるよう指導します。

② 保護者への説明

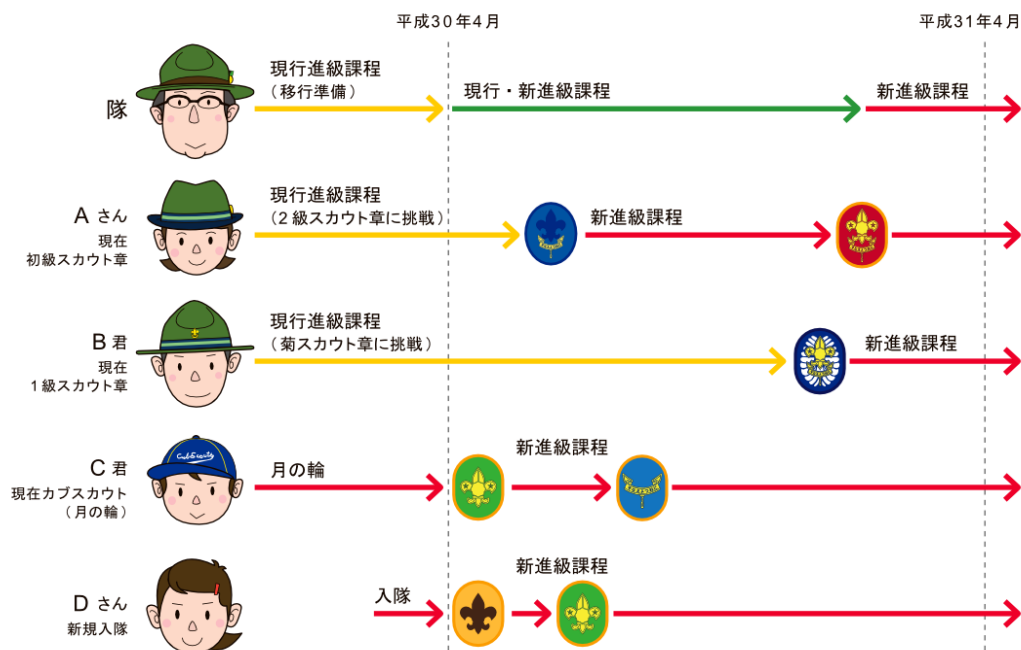
保護者に対しては、新進級課程の趣旨を周知してください。また、それぞれの進級課目に設定された「キーワード」と「目標」から、スカウトの現在位置を伝え、その後の成長した姿を想像させるようご説明ください。

③ 団関係者との調整

今回の改定に関わるボーイ隊、ベンチャー隊の指導者がまずご理解いただき、団関係者、隣接部門のカブ隊、ローバー隊の指導者に新進歩課程の主旨と具体的内容を説明し、必要な援助について話し合い、共通理解を得ます。

また、新たな書籍の準備、従来の選択課目の活用（ターゲットバッジ、マスターバッジ）と進級課目に関連する技能章の準備といった経費面についても団内で話し合いコンセンサスを得ます。

以下は、平成30年4月に移行を開始した時の図（スカウティング誌1月号より抜粋）です。移行時期はスカウトで異なります。個々のスカウトがどのタイミングから新進級課程に取り組み始めるか、隊指導者からスカウトへ説明をするこの移行準備が重要です。



4. 移行の方法

(1) 移行のための隊集会

移行に際してはスカウトの進級状況の把握は必須になり、そのために「移行のための隊集会」を実施することが必要不可欠です。移行の説明には「移行のためのスカウト読み替え表」を活用してください。読み替え表には新しい課目の一覧があり、スカウト自身が現行課目で履修したものを探してチェックすることで、対応する技能章の細目を履修したものとみなすことができ、残りの細目に挑戦することで取得につながります。

スカウトたちは新しい課目を知ることができ、なおかつ、現行の履修状況を自分たちで確認し、挑戦してみたいものを挙げられるという利点があります。

(2) 移行の時期を調整する

平成29年9月1日以降、ボーイスカウト部門およびベンチャースカウト部門に新たに上進・入隊するスカウトは、新進級課程を履修します。また、既入隊のスカウトは、現在の級について現行の進級課程を履修し、次の級からは新進級課程に則ることで、各隊・団で1年以内の完全移行を目指します。

移行の時期を調整するにあたっては、団によって上進の時期が異なることや、スカウトの各年代が何人いるか、どこまで進級しているかにも影響します。移行の時期については、上進時期に応じた2つの時期で3つの方法が考えられます。

① 9月上進の隊・団の部分移行

平成29年9月に上進・入隊するスカウトから新進級課程を履修し、既入隊のスカウトは、現在の級の履修を修了して、次の級から新進級課程に移行を始め、平成30年8月までにすべてのスカウトの移行を完了します。

ベンチャー隊へ上進する中学3年生は、既入隊のスカウトと同じく、現在の級の履修を修了して、次の級から新進級課程に移行を始めます。

② 4月上進の隊・団の部分移行

平成30年4月に上進・入隊するスカウトから新進級課程を履修し、既入隊のスカウトは、現在の級の履修を修了して、次の級から新進級課程に移行を始め、平成31年3月までにすべてのスカウトの移行を完了します。

③ 4月上進の隊・団の一斉移行

平成29年9月以降、上進前の平成30年3月までの間にすべてのスカウトが現行の級の履修を修了して、すべてのスカウトが新進級課程に移行を済ませ、平成30年4月から上進・入隊するスカウトを含めて、一斉に新進級課目に取り組みます。

一見、新旧2つの進級課程がなく合理的に思えますが、半年以内にすべてのスカウトが次の級に進級しなければ、②の部分移行と同様に2つの進級課程を並行して取り組むこととなります。

(3) ベンチャースカウトの移行

移行の方法と時期は、上記のボーイ隊と共通ですが、移行時に高校2年生のベンチャー章取得者で隼章を履修しているスカウトには次の配慮が必要です。

① 履修状況が遅い場合

ベンチャー章を取得後、隼章への履修状況が遅い場合には、途中で移行期間を経過してしまう恐れがあり、履修途中で新進級課程を取り組み直すこととなります。

② 移行期間内に隼章を取得した場合

隼章を取得後、新進級課程の富士章を履修することになり、取得のハードルが高くなります。

新進級課程と比べ、現行の隼章と富士章はスカウト技能に関する累進制が異なるため、必須とする技能章やスカウト技能の違いから、ボーイスカウト時代に1級章以上に進級していないと新進級課程の細目の履修が難しくなります。そのための特別措置として、次の方法が考えられます。

① 移行期間にボーイ隊からベンチャー隊へ上進するスカウト

平成29年9月または平成30年4月にボーイ隊からベンチャー隊へ上進するスカウトは、(2)で行う移行方法の既入隊のスカウトとして扱い、ベンチャー隊へ上進してからも現行の進級課程を履修し続け、次の級から新進級課程に移行します。ただし、上進前に2級の場合には、現行の1級課目をベンチャー隊で履修することになるので、ベンチャー隊でも現行の進級課程を履修できる活動を取り入れるか、ボーイ隊のジュニアリーダーとして奉仕しながら履修する取り組みが必要となります。

② 移行開始時に高校2年生のベンチャースカウトでベンチャー章取得者

移行を始める前に、現行の履修状況とボーイスカウト時代の進級状況を比べ、現行の進級課目のまま富士章を目指すか、ボーイ隊で取得した次の級から新進級課程に取り組み富士章を目指すかを判断します。

前者の場合には、1年の移行期間を超えて最長2年間まで現行の進級課程を続けられます。

9. 記章の着用

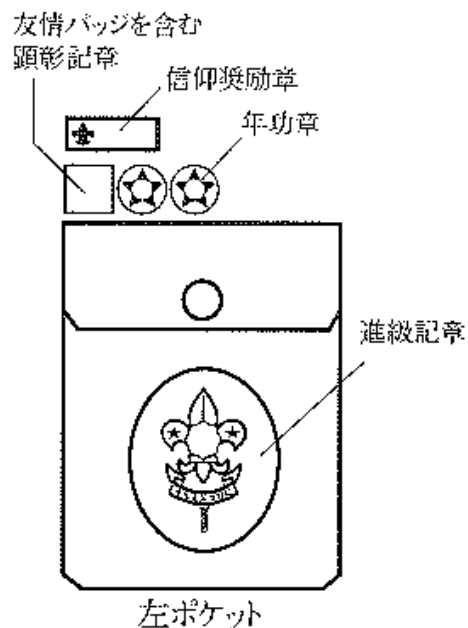
1. 進級記章

ボーイスカウトおよびベンチャースカウトの進級記章は、左胸ポケットの中央に着用します。

着用している記章は、上位の進級課程を修了した場合は、現在の記章と付け替え、上位の記章を着用します。

なお、これまでベンチャースカウト部門で着用していたプロジェクトバッジは、新進級課程を履修している場合は、着用することができません。

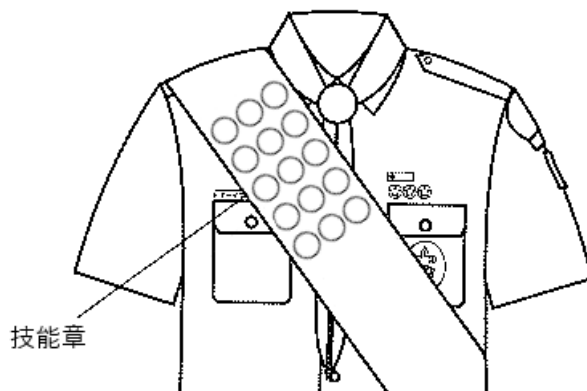
ただし、すでにベンチャー隊に在籍しており、現行の進級課程に引き続き取り組むスカウトについては、着用することができます。



2. 技能章

ターゲットバッジとマスターバッジは、これをすべてタスキに、技能章は制服右袖に着用することとなっていました。選択課目を技能章に統一するため、着用基準を以下のように定めます。

新進級課程では、最終的に技能章を15個修得する必要がありますので、進級に合わせ、7個以上修得した場合は、すべての技能章を制服から外してタスキに改めて着用し直します。



以上

新進級課程各章の進級課目一覧

平成29年4月1日付

進級課目 進級記章 キーワード		 初級スカウト章 「仲間」	 2級スカウト章 「ハイキング」
目標		初心者として、ハイキングやキャンプで自分のことが自分でできるようになる。	班の中心として、ハイキングの計画・実施・報告ができるとともに、初級スカウトの指導ができる。
基本		(1)「ちかい」と「おきて」が言える。そのうえで、隊長と話し合う。(★) (2)「スカウト章」「モットー」「スローガン」の意味を説明できる。 (3)日本の国旗の正しい様式を知り、集会で掲揚柱に掲揚する。 (4)「連盟歌」が歌える。 (5)普段の集会で必要なもの(訓練用具)を知り、携行する。 (6)スカウトサイン、敬礼、スカウトの握手ができる。	(1)「ちかい」と「おきて」について意味を説明でき、その実践に努力していることを隊長に認めてもらう。(★) (2)日本の国旗の意味、歴史、仕様を説明でき、班や隊の活動で国旗を正しく掲揚できる。 (3)外国旗およびその国のスカウト章を5か国以上見分ける。
健康と発達		(1)体温と脈拍を正しく測ることができる。	(1)体温、脈拍と体調との関係について説明する。 (2)救急法 ①日常遭遇しやすい次のような場合の応急手当や対応を説明できる。 ア)鼻血 イ)目のちり ウ)やけど エ)指の切り傷 オ)立ちくらみ カ)頭痛 キ)蜂、ダニ、毛虫などの虫さされ ク)熱中症 ②三角巾で他の人の頭、手、ひざ、足に包帯を巻き、腕を吊る方法を実演する。 (3)隊または班の安全係を3か月以上担当する。
スカウト技能	スカウト技能	(2)集会で使う身ぶり信号(気をつけ、休め、すわれ、分かれと集合隊形の各種サイン)、笛の合図を覚える。	
	キャンピング		(2)キャンピング ①次の野外料理を作る。 ア)複数人数分の米飯および味噌汁 イ)複数人数分の野菜、肉、魚、玉子を材料とした2種類以上の料理 ②かま、なた、のこぎりを安全に使用でき、手入れと保管ができる。 ③火口、焚き木、薪を作り、マッチ2本で火を起こし、500mlの水を沸騰させる。
	ハイキング・読図		(1)ハイキング・読図 ①16方位と方位角の呼び方を覚え、コンパスで進路を発見する。 ②2万5千分の1地形図を用いて次のことをする。 ア)図上に示された2つの地点の間の方位角、直線距離、標高差、道路に沿った歩行距離を読む。 イ)真北と磁北の違いを説明する。 ウ)500m(または1km)ごとの方眼を正確に書き入れた地形図により、6桁(またはは8桁)座標読みを行い、示された地点に到達する。 ③三角点、水準点、標高点、等高線とは何かを知り、三角点または水準点の標石を発見する。 ④10個以上の地形図記号を覚える。 ⑤コンパスを用い、バックベアリングができる。 ⑥地図とコンパスを用いた10km程度のハイキングを計画し、隊長の指名する2級以上のスカウト(但し、適任者がいない場合はベンチャースカウトも可)とともに、保護者の同意のもと実施し、報告する。このハイキングは、1.基本(1)および6.班長会議(1)以外の課目を終了した後に、仕上げの課目として行う。(★)
	ロープ結び	(3)ロープ結び ①次のロープ結びの使いみちを理解し、実際に使う。 ア)本結び イ)一重つぎ ウ)ふた結び エ)もやい結び オ)8の字結び	(3)ロープ結び ①次のロープ結びの使いみちを理解し、実際に使う。 ア)巻き結び イ)ねじ結び ウ)引きとけ結び エ)ちぢめ結び オ)腰掛け結び カ)てぐす結び キ)てこ結び ク)張り綱結び
	観察		(4)観察 ①食用植物、有害植物をそれぞれ2種以上見分ける。 ②24個の小さな物を1分間観察し、そのうちの16個以上を記憶によって答える。
	計測	(1)自分の体や身近にあるものを用いて簡単な計測を行う。	(5)計測 ①100mの距離を誤差5%以内で歩測する。 ②スカウトペースで2kmを15分で移動する。 ③はかりや計量器を使わずに、1合の米、10の水を15%以内の誤差で量る。
	通信		(6)通信 ①片かな手旗信号で15の原面を理解し、10文字程度の語句を発信、受信できる。 ②追跡記号を10種以上覚える。
	技能章		
	スカウト精神		
	善行(初級)／奉仕	(1)集会などで行う社会奉仕活動へ積極的に参加する。	(1)デンコーチとして3か月以上の奉仕、または社会奉仕活動を3回以上奉仕する。
信仰奨励／信仰(隼・富士)	(1)隊集会やキャンプ、ハイキングでスカウトOWN・サービスに参加する。	(1)スカウトOWN・サービスで自分ができる役割を果たし、「ちかい」と「おきて」を日常で実践したこと、実践により感じたことを発表する。	
班長会議／成長と貢献(隼・富士)	(1)初級スカウトとして進級することを、班長会議で認めてもらう。	(1)初級スカウトとして3か月以上、隊および班活動に進んで参加したことを班長会議で認めてもらう。	



新進級課程各章の進級課目一覧

平成29年4月1日付

進級課目 進級記章 キーワード		 1級スカウト章 「キャンピング」	 菊スカウト章 「模範」
目標		ボーイスカウト活動の中心として、スカウトキャンプの計画・実施・報告ができスカウト技能全般を単独で実施できる。	自分の隊・班で積極的に活動でき、他のスカウトの良き模範として、班長や上級班長等、責任ある行動と指導ができる。
基本		(1)「ちかい」と「おきて」の実践に努力していることを日常の生活で示す。(★) (2)姉妹都市または自分が興味を持っている2か国の民族、文化、通貨、言語を調べ、隊または班集会で話す。 (3)日本の国旗と外国旗を併用して掲揚および設置する時の注意事項を知る。 (4)半旗の意味と正しい掲揚の方法を知る。	(1)「ちかい」と「おきて」の実践に努力して他のスカウトの模範となる。(★) (2)班長、次長(グリーンバー)、またはジュニアリーダーとして隊運営(6ヶ月以上)に携わる。 (3)B-Pのラストメッセージを読み、隊長とその内容について話しをする。(★) (4)外国のスカウトの「おきて」を調べる。できれば海外からのスカウト・指導者に直接教えてもらう。
健康と発達		(1)50m 泳ぐか 1,000m を走り、自己記録を更新できるように努力すること。 (2)水分や食物の補給が体調に与える影響を知り、体調を管理するための準備ができる。 (3)救急法 ①班員1人と協力して急造担架を作り、実際に人を運ぶ。 ②直接圧迫止血法と間接圧迫止血法の違いを知り、直接圧迫止血法による応急処置ができる。	(1)5分間泳ぎ続けるか、または1,000mを5分以内で走ることができる。 (2)救急法 ①AED(自動体外式除細動器)について以下のことが説明できる。 ア)AEDとは何か イ)どういう時に使用するか ウ)使用の手順 ②タバコ、アルコール、薬物による人体に及ぼす害について知る。
スカウト技能	スカウト技能		
	キャンピング	(1)キャンピング ①班の炊事係として、2泊3日以上のカンピングの調理を担当する。 ②自然物(石、木、竹等)を用いた、キャンピングに役立つ工作を1つ以上作成する。 ③マッチの防水加工を施し、携帯用の防水容器に入れて提出すること。 ④連続5泊以上の、隊キャンプか自団の隊または班で参加できる地区、県連盟、日本連盟のキャンプ大会に参加する。 ⑤キャンプにおける用便、ゴミ処理ならびに食料保管について、衛生上注意する点を知り、実践できる。 ⑥1級旅行(1泊24時間以上のハイキング)の計画書を作成し、必要な個人装備を携行して隊長の指名するベンチャースカウト(但し適任者がいない場合は1級以上のスカウト)とともに、隊長より与えられた課題と方法によりキャンプを行い、報告する。このキャンプは、1.基本(1)および 6.班長会議(1)以外の課目を終了した後に、仕上げの課目として行う。(★)	(2)班長、次長(グリーンバー)として班キャンプ、またはジュニアリーダーとして隊キャンプの計画を行い1泊以上の固定キャンプを実施し隊長に報告書を提出する。(★)
	ハイキング・読図	(2)ハイキング・読図 ①日中、夜間においてコンパスを用いずに方位を2種類の方法で発見する。 ②300m以上の距離に追跡記号を設置し班員を誘導する。 ③クロスヘアリングの手法を用い、地形図上で現在地を発見する。	
	ロープ結び	(3)ロープ結び ①次のロープ結びの使いみちを理解し、実際に使う。 ア)垣根結び イ)よろい結び ウ)バタフライノット エ)馬つなぎ オ)からみ止め カ)バックスプライス キ)角しばり ク)はさみしばり ケ)筋かいしばり	
	観察	(4)観察 ①樹木5種類以上をスケッチまたは写真で記録し、特徴を述べる。 ②北極星の発見方法を知り、北極星を発見できる。また、5つの星座を発見できる。 ③身近にいる動物(ほ乳類・鳥類・魚類など)について観察し、報告する。	
	計測	(5)計測 ①自作の簡易測量器具を用いて、樹木などの高さを誤差10%以内で測る。 ②簡易測量法を用い、到達できない2点間の距離(長さ、高さ)を誤差10%以内で測る。 ③ハイキングで野帳をつけ、またその野帳によって略地図を作る。	
	通信	(6)通信 ①片かな手旗信号で20文字以上の文章を発信、受信できる。 ②号笛を使って野外でできる簡単な通信ゲームを考え実施するか、号笛を使用した救難信号を覚える。	
	技能章	(7)技能章から、「ハイキング章」「スカウトソング章」を取得する。	(1)技能章から「野営章」「野外炊事章」「リーダーシップ章」を取得する。
スカウト精神			
善行(初級)／奉仕		(1)班での奉仕活動を計画し、隊長の承認を得て実施、報告する。(★) (2)自分の住んでいる地域の3つ以上の施設への案内ができる。	(1)団・地域で取り組んでいる奉仕活動に4日(1日1時間以上)以上参加する。
信仰奨励／信仰(集・富士)		(1)隊集会やキャンピング、ハイキングでのスカウトタウン・サービスで主要な役割を果たす。	(1)信仰奨励章を取得する。(★)
班長会議／成長と貢献(集・富士)		(1)2級スカウトとして3か月以上、隊および班活動に進んで参加したことを班長会議で認めてもらう。	(1)1級スカウトとして4か月以上、隊および班活動に進んで参加したことを班長会議で認めてもらう。

新進級課程各章の進級課目一覧

平成29年4月1日付

進級課目 進級記章 キーワード		 隼スカウト章 (★) 「冒険と奉仕」	 富士スカウト章 (★) 「リーダーシップ」
目標		スカウト技能を役立てることができ、ジュニアリーダーとして基本的な隊運営の知識を有し、健全なる体と精神を身につける。	プロジェクトの計画・実施・報告ができ、奉仕の精神と社会の一員としての責任を持ち、社会貢献を果たせるリーダーとなる資質を身につける。
基本		(1) 菊スカウトとして、最低6か月間「ちかい」と「おきて」の実践に最善をつくす。	(1) 隼スカウトとして、最低6か月間「ちかい」と「おきて」の実践に最善をつくす。 (2) 現在の自分の考えと将来の進路についてまとめ、その内容について指導者と話し合う。
健康と発達			
スカウト技能	スカウト技能	(2) 次のスカウト技能のいずれかをボーイスカウト隊で指導する。 ① 計測 ② 通信 ③ ロープ結び	
	キャンピング	(1) 自分を含め2人以上のベンチャースカウトとともに、安全と衛生および環境に配慮した2泊3日以上移動キャンプ(歩行距離20km または、自転車 100km 以上)を計画し、隊長の承認を得て実施、報告する。	(2) 自ら設定した課題により、2泊3日の単独キャンプ(固定または移動)を計画し、隊長の承認を受けた後、実施・評価を報告書にまとめ隊長へ提出する。
	ハイキング・読図		
	ロープ結び		
	観察		
	計測		
	通信		
	技能章	(3) 技能章から「救急章」「バイオニアリング章」を取得する。	(1) 技能章から「野営管理章」「公民章」を取得し、技能章を合計15個以上取得する。
スカウト精神	(1) 「スカウティング・フォア・ボーイズ」のキャンプファイア物語 21, 22 および 26 を読み、内容について隊長と話し合う。	(1) 「スカウティング・フォア・ボーイズ」を読み、感想文を提出する。	
善行(初級)／奉仕	(1) 他部門の活動へ6か月以上にわたり奉仕し、その実績を報告する。 (2) 社会的弱者(高齢者、障がい者等)への支援活動を積極的に行い、活動記録を隊長に提出する。	(1) 地域社会や学校などでの奉仕活動を企画し、隊長の承認を得て実施して、報告する。 (2) 地区、県連盟、日本連盟の行事等に奉仕し、その実績を報告する。 (3) 奉仕の意義について理解し、自身が今後の人生においてどのように社会に対して奉仕貢献できるかを文章にまとめ隊長と話し合う。	
信仰奨励／信仰(隼・富士)	(1) 自分の所属または興味を持った教宗派の歴史と教えを知る。 (2) 自分の所属または興味を持った教宗派の宗教行事について知る。	(1) 宗教章を取得するか、またはその取得に努力をする。	
班長会議／成長と貢献(隼・富士)	(1) チームプロジェクトのチーフまたは、主要な役割としてプロジェクトを計画、実施し、報告書を隊長に提出する。または、3泊4日以上隊野営の実施計画を作成し、実際に隊野営の運営を行い、隊長に報告する。	(1) 隼スカウトになった後、自己の成長と社会に役立つための課題を設定して、個人プロジェクト(研究・製作・実験など)を自ら企画し、隊長の承認を得た上で少なくとも1か月以上にわたって実施・完結させ、企画書、計画書、および報告書を隊長に提出する。	

移行のためのリーダーハンドブック
ボーイスカウト部門 ベンチャースカウト課程 新進級課程

平成29年4月1日

発行



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

日本連盟プログラム委員会 編

〒113-0033

東京都文京区本郷1-34-3

電話：03-5805-2634

ファックス：03-3830-3678

e-mail：program@scout.or.jp



そなえよつねに
ボーイスカウト